



クレヨンは何からできているの、どうやって作るの

顔料とろうから作る

クレヨンのようなものは、ギリシャ・ローマ時代にすでにあつた、といわれています。顔料（色のもと）と、ろうを混ぜ合わせて作られました。

顔料は、物に色をつけるための色素（色のもと）です。顔料は、水や油などにとけない細かい粉です。

顔料は、自然にある、色のついた石の粉などで、作られてきましたが、最近では石も少なくなり、工場で人工的に作られることが、多くなりました。

工場で作られる顔料は、昔は、石炭を使って、作っていたこともありましたが、今は、石油から作られています。

クレヨンは、顔料と、ろうを原料にしています。クレヨンは、顔料にろうを混ぜて、機械で、一本一本のクレヨンの形に、固めて作ります。

ろうが入っていないクレヨン

画家が使っているクレヨン（コンテ）と、ふつう、みなさんが使っているクレヨンは、作り方が少しちがっています。画家の使っているクレヨンには、ろうが入っていません。顔料だけを固めて作られています。しかし、このクレヨンは、ろうが入っていないので、やわらかくて折れやすく、使い方がむずかしいのです。（監修・青木 国夫）

